◎発言

ステファン・レオン
マレーシア戦略国際問題研究所副所長

日本はアジア重視にパラダイムシフトを

ステファン・レオン
1938年生まれ。60年イリノイ大学、62年カリフォルニア大学バークレー校で学ぶ。76年カリフォルニア大学ロスアンゼルス校より博士号。マレーシア大学で教鞭を取った後、84年よりISISに加わり、92年シニアフェロー、日本研究所所長に任命される。マレーシア太平洋経済協力委員会（MANCPEC）委員、マレーシア・日本経済協力評議会メンバー等も兼務。

日本は、20世紀に単一民族国家として経済大国の地位まで上り詰めた。しかし21世紀に入って日本は、人口がピークを過ぎ人口減少という事態に直面するのをはじめ、さまざまな問題を抱え、新たなパラダイムシフトが必要になる、というレオン氏。その際、日本はアジアとの関係づくりがポイントとし、対米関係重視の姿勢を継続するかどうかは日本の判断ながらアジア重視の姿勢を明確にする必要があると指摘している。

結論から先に言えば、日本は、アジアの中で依然として経済大国であることに変わりがない。国民全体が中産階級で、いわば1億総中産階級のようなところがあるうえ、技術力の強さなども加わったところが日本の強みだ。しかし、日本は、その強みにしていたいくつかの枠組みが崩れてきている。そこで、日本が、自らの足元を見直しながら、今後どういった枠組みを再構築するかが重要だ。その場合の1つのポイントは、率直に言って、アジアとの関係をどうするのかということでないかと思う。

経済大国の一方で高齢化・人口減少の現実

日本はいま、人口構成が高齢化してきて社会問題になってきた。しかも出生率が非常に低下する少子化が定着してきた。これ

は日本の人口が増えないどころか、人口がピークに達し、今後は減少傾向にある。

これをどうやったら止められるのか。抜本的な手法をとるしかないと思うが、解決方法の1つ考えられるのが、単一民族国家の発想を改め、社会を広げてオープンにし、新しいアイデアとか創造性をどんどん日本の外から注入し、日本の経済社会に新たな活力を作り出すという点だ。

20世紀は、日本が、単一民族の国として経済大国になるまでいろいろな努力を積み重ね、実際、その地位を達成した。しかし21世紀は全く違う方向になっている。21世紀はグローバライゼーションの時代と言われ、そのグローバル化の圧力が日本にもかかっている。

そういった中で、日本は、人口のピークが過ぎ、あとはどんどん減少して、今までになかった問題に直面している。これまでのモデルが通用せず、新しいモデル、つまりはパラダイムシフトが必要になっているのだ。

外国人受け入れるオープンな社会化を

その場合の1つのポイントが、前述のグローバリゼーションに対応したオープンな社会化と言うことだ。

日本人のうち、保守的な人は、日本人が外国からの移民などを受け入れた場合、日本国民としての単一性もなくなってしまうと心配するかもしれないが、グローバル化し、人口を多様化させることによって、みんなが1つになるというユニティーを生み出す新たなメリットもある。

マレーシアが今ちょうどそういう状態だ。昔は、マレーシア・イコール・マレー人といった形で、マレー人の中でもみんなが同じようでなければいけないといったようなことがあった。しかし、だんだんマレー人以外の人材の多様化が進み、すべての人に成功するチャンスを与えることにした。ビジョン2020と呼ばれるものだが、この多様化がマレーシアの強みになった。マレーシア・トゥルーリー・アジアというのが今のスローガンだ。

日本は、しかるべき手を打てば、20年後も、まだメジャーな経済大国として残っていると思う。今、中国が台頭してきているが、中国は日本に比べ、経済の規模が非常に小さい。日本の25％ぐらいの経済規模でしかなく、日本に追いつくにはまだまだ長い道のりがある。一方で、日本はまだ、伝統的なものに強いし、またイノベーションにも非常に強い。

ところで、日本は、ODA（政府開発援助）などがプラスに働き、東南アジアでは、プラスイメージの方が多いと思う。しかし、北東アジア、とくに中国や北朝鮮、韓国では日本のイメージが逆にマイナスとなっている。理由は、やはり戦争ということがあり、戦争での経験がまだ尾を引いている。

北東アジアでの日本に対する不信を払拭しなければいけない。それにはさまざまな協力が必要だ。それが進めば、不信感というものが取り払われて、互いに信じ合える社会になる。日本にとっても非常に役に立

つことだと思う。

強すぎる米国とのアライアンス見直しも

また、日本は、アメリカとの関係も見直すことが必要だ。

東南アジアから見ていると、アメリカと日本の関係は、アライアンスが非常に強過ぎる。今まで何十年間もUSイコールジャパンという感じで、関係が続いてきたが、アメリカはここに来てユニラテラリズムに偏ってきているような気がする。日本がそのようなアメリカの一国主義をサポートするのではなく、例えば国連の中で、もっと、日本の役割を追求していくといったバランスをとる必要があると思う。

日本は、アメリカに頼り過ぎていて、非常に対価を払っていると思う。日本にとっては、アメリカとの関係は大切なんだろうが、マレーシアもアメリカとの関係を大切だと思って、アンチUSといった形でいろいろ批判している。

マハティール前首相はアメリカのことを非常に批判しているが、でも、マレーシアとアメリカは、それでも非常によい関係を保っている。経済的な協力関係も非常にいいし、アメリカはマレーシアへのナンバーワンの投資家だし、また教育についても協力している。

何が正しいのか、何が間違っているのかといったようなきちっとした自分の考えを持って接することだと思う。私は何も、アメリカとのアライアンスをやめろとか、そういったようなことを言っているわけではない。しかしながら、もっと両面を見て、例えばアメリカとのアライアンスはコアである、それはもちろん大切であり、これからも維持していくものであると思っていますけれども、それとプラスして、もう1つの面であるほかの国との協調関係、他国間との協調関係というものをもう少しバランスよく見ていただけたらなと思う。アメリカとの関係を犠牲にすることなしに、もっとアジアの方に目を向けろといいたい。

2004年のバリでのASEANサミットで、興味深いことがあった。中国とインドがASEAN友好協力協定に喜んでサインしたが、日本はあまり気が進まない態度で、保留だった。ほかのアジアのリーダーたちは、なぜなのかというふうに思ったが、答えは簡単。日本は、アメリカを傷つけたくなかったというか、アメリカを怒らせたくなかった。これでは独立性が全くない。ところが、小泉首相は、同じ04年12月の東京でのASEANサミットで、一転、サインに踏み切った。それならば、最初からこの友好協定にサインすると意思表示すればよかったのに、となる。

アジアとの信頼関係の再構築が重要

最初から言わないと、やはり信頼というものを築き上げることはできない。アライアンスはできるかもしれないけれども、信頼を築き上げるのは非常に難しい。これが日本にいま、問われるところだ。

私の意見では、日本は、自分の立場をどんどん難しくしているというような感じが

する。アメリカに対して、意見を言えないということなのかもしれないが、私から見ていると、日本は、自分で自分の意見をいつもチェックしている、つまり自己規制しているような感じがする。このため、結果的に、対外的に思っていることをそのまま言えない。いつもどのように言おうか、どのように言おうか考えようとしているような気がしてならない。言いすぎだろうか。

もう1つの例としては、日本は、自らの政策として、イラクに人道支援という大義名分で自衛隊を派兵したが、これはアメリカの対テロ戦争をサポートしている面もある。もちろん、マレーシアも対テロ戦争については、全面的にサポートしている。しかし、このイラク問題に関しては、アメリカは、中東、あるいはイラクの民主化という民主主義の押し付けが、いつの間にか宗教戦争に発展し、世界中の国々を巻き込む一種の戦争にしてしまっている。いまは、イラクでの反米ムードの高まりが、対米テロ行為に発展している。

いま、アメリカに対しては、なぜイラクで、反米テロが起こるのかという根本的な原因をしっかり見ろというふうにアメリカに注意し、警告し、場合によっては、宗教戦争に発展しないように説得することが必要だ。

アメリカは、いま、反米テロが一部のイスラム過激派の仕わざだと決め付け、根本原因というものに、あまり目を向けていないような傾向がある。このため、ますます状況を難しくしてしまっている。

米国が中東イニシアチブというか、中東を民主化するといった世直しのような思い上がった発想をすること自体が非常に大きな問題だと思う。それが今の反米テロ行動の火に油を注いでいるような気がする。

だから、アメリカとアライアンスを組んでいる英国はじめ、いくつかの国のうちでも、日本が注意や警告するようなメッセージを伝えてやる必要がある。そのアクションを起こすことで、日本に対するアジアのイスラム国などの見方も変わってくる。

日本はASEAN＋3の枠組みベースに重要な役割を

ところで、アジアにおける中国の問題についても、言及しておこう。

中国が政治的に、経済的に台頭してきたという位置づけや、中国がこれから脅威になるのでないかといった人たちがいる。

しかし、今、これからの新しい時代、とくにアジアでは、互いに協力ということがキーワードになる時代だから、中国を含め、どの国も協調し経済成長を遂げたいと思っていると思う。

究極的には、日本がアジアの中で、メジャーな大きな力として、アジア各国と一緒に、そして中国、韓国、北朝鮮も引き入れて一緒に互いに協力しあう枠組みづくりをしていくことが重要だ。それによって、みんなが繁栄することがベストだと思う。その意味で、ASEAN＋3、つまり中国や韓国など3つの国のプロセスがベースになることが必要で、日本がその枠組みの中で、重要な役割を果たしてほしい。